

編集 後記

警察庁より平成20年中の自殺者数の発表があった。11年連続して自殺者数が3万人を超えることが確実になった。特に世界同時不況が深刻となった10月には3千人を超え最も多い月となった。政府・地方自治体は色々な自殺対策を講じているところであるが、残念ながら減少には結びついていない。対策を凌駕する勢いで状況が悪化しているという現状である。セーフティネットも機能不全の状態にある。不況は他国も経験しているが、イタリアでは日本ほど自殺死亡率の大きな変化を示したことはなかった。ハンガリーは日本の数倍高い自殺率であったが、現在は日本の水準に近づきつつある。共産主義時代が終わり、政治的・社会的に自由になったことの影響が大きかったようだ。経済的困窮の影響は大きいとしても、将来に希望を見いだせない絶望的な状況こそが真の問題といえそうだ。その意味で、政治家・行政官・学者が協力して未来を見据えた戦略的政策を策定遂行する必要がある。世界規模での環境問題が深刻化している中、環境負荷の少ない産業がさらにスピード感をもって発展するよう補助金を活用して、結果として雇用確保に結び付ける必要があるし、介護・保健・医療分野の労働環境の改善により定着率を高めることも必要である。全てに財源が絡むがプロセスを含めて透明性を高め国民の納得できる形で雇用と希望を創出したいものである。

(坂田清美)

次号予告 (第56巻・第5号)

原著

A cross-sectional study of factors associated with intentions to leave among newly graduated nurses in eight advanced treatment hospitals:
job stressors, job readiness, and subjective health status

(特定機能病院8施設の新卒看護師における離職意向の要因に関する横断研究)

.....Maki TOMINAGA, et al

豊かな出産体験がその後の女性の育児に及ぼす心理的な影響.....竹原健二, 他

短報

高知市における救急搬送記録を用いた転倒・転落の実態調査.....吉本好廷, 他

連載

運動・身体活動と公衆衛生(15).....津下一代

わが国の結核対策の現状と課題(8).....小林典子

心理社会的要因の測定(2).....堤 明純

◆◆第22回日本循環器病予防セミナー◆◆

「循環器病の予防:疫学と臨床のコラボレーション」

研究プロトコル作成を通じて臨床・疫学研究の重要性を理解する(研究プロトコル作成のための実践講座 初・中級コース)

●会 期 平成21年8月2日(日)~8月6日(木)

●場 所 鳴子温泉郷中山平温泉 仙庄館 (〒989-6832 宮城県大崎市鳴子温泉字星沼28-2)

●対象者 循環器予防学に燃えている医師、大学院生・研究生、コメディカルを歓迎

●定 員 40名(先着順) ●参加費 会員40,000円/非会員50,000円

●内 容 ■疫学研究の意義と手法を学ぶ ■循環器臨床・疫学研究の企画・実施のポイントを学ぶ

■ 循環器予防・臨床研究デザインを作成する ■ グループワークによる検討と全体討論

※講義、講師等詳細は日循協参照ウェブサイトを参照

●申込方法

日循協ウェブサイトより申込書をダウンロードし、必要事項を記入後、メールにて日循協事務局に送付。

●問い合わせ先

社団法人日本循環器管理研究協議会

〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-48-10 25山京ビル305号

TEL 03-3989-0680

FAX 03-3989-0953

E-mail fvgh4570@mb.infoweb.ne.jp

URL http://www.jacd.info